

川との出会い

石神井台在住 上久保れい子

まだ子どもが小学生の頃、白子川に架かる中島橋を過ぎた道をしばらく歩いていると、なんとガチョウが車を避けながらよちよちと歩いているではありませんか！びっくりして見ていると、その時一緒に歩いていた子どもの友人のお母さんが、がばっとガチョウを抱き上げ、川まで持って行きました。その勇気に感心しながら後をつい

ていくと、川の流れの中には気持ちよさそうに泳いでいるカモの親子が見えました。その後も度々、川を覗いてみると、いろいろな生き物が見つかり、川が動物の棲家になっていることを知りました。

父の転勤で、地方の都市に住んでいた子どもの頃によく川に遊びに行きましたが、練馬の地にも親しみの持てる川があることは本当に嬉しいことだと感じています。これまで川を守る工夫をされて来られた会の方たちに感謝しつつ、活動に加えて頂けることを楽しみにしています。

どうぞよろしくお願ひ致します。



アメリカザリガニのお話

井口 卓磨

前回国内外来種のカワムツの話をしてきましたが、今回は国外外来種のアメリカザリガニの話です。

アメリカザリガニが持ち込まれたのは1927年で、ウシガエルの餌用として鎌倉食用蛙養殖場に20匹持ち込まれました。その後、養殖池から逃げ出した個体が1960年ごろには九州まで分布域を広げました。

たった20匹が今や全国で普通に見られる物になりました。白子川にもたくさんアメリカザリガニがいます。彼らは何を食べるのでしょうか。それはアブラハヤやホトケドジョウなど貴重な白子川の生き物たちです。確かにアメリカザリガニは子供達も大好きな生き物です。しかし一部の環境では大量繁殖、他の魚をすべて食べてしまう場合があります。白子川では何度もアメリカザリガニにより貴重な魚たちが絶滅寸前まで追い込まれました。アメリカザリガニ対策は急務です。アメリカザリガニはとても繁殖力が強く根絶することは不可能です。ですが減らさなければもしかしたら白子川に魚が1匹もいなくなってしまうかもしれません。

今、私たちができることは、アメリカザリガニを駆除し増やさせ過ぎず、また子供達の大切なふれあいの生き物として白子川の大切な自然の一部として少し、少しだけ残すことではないでしょうか。そして貴重な魚たちがたくさん見られる白子川的环境を作っていくことではないでしょうか。

アメリカザリガニという人間が持って来た生き物には、様々な問題があります。とても厄介な生き物です。しかしそこから目を離さず問題を見つめていくことが、今を生きる私たちの責任のように感じています。

(立教新座高校 生物部)